

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの特徴を生かし、毎月の会議や日々の申し送りの際、理念を確認し努力している。	「利用者一人ひとりの個性や気持を大切にし、地域で自分らしく生きていることを実感できるサービスの提供」を目指す理念は玄関や調理室にも掲示しており、月1回の定例会議やミーティング・申し送りで職員にも徹底しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り等の地域行事への参加や市内の小・中・高等学校の運動会や文化祭など学校行事へ参加したり慰問などボランティアの方々の訪問が多くある。	市内の幼稚園、小・中・高校生との交流やハーモニカやハンドベルの演奏などのボランティアを数多く受け入れて、地域の一員としての交流を大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を開催したり、小・中学校の職場体験学習や高校生ボランティアの受け入れを行っている。 新任中学校教諭の福祉施設実習の受け入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果は運営推進会議や家族へも報告し、話し合いによる意見をサービス向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は年3回、市の介護保険課、地域包括支援センター、区長、民生委員、家族の代表の参加で開催されています。市の方針や施設の運営に関して幅広い内容を討議しています。また、結果は家族にも連絡しており、さまざまな意見をサービスの向上に活かしています。	市の介護担当部署や地域の各団体ならびに家族などとの連携を更に高めてサービスの向上を図るために、運営推進会議の開催回数を増やすことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡会や研修等へ積極的に出席している。 市介護保険課とは運営推進会議の出席を含め、常時良い協力関係作りに努めている。	年4～5回開催される地域包括支援センター主催のグループホーム連絡会や研修会には毎回職員が出席し、情報交換の場としています。地域で開催の運動会などにも積極的に参加して地域連携を深めています。市の介護保険課とは運営推進会議の出席を含め、常時良い協力関係を築いています。現在、香取市の地域密着型連絡会の代表をしており、同業者との意見交換も積極的にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束禁止について勉強会や研修にて理解している。 日中は玄関やテラスの施錠はせず、身体拘束はしていない。	身体拘束禁止の取り組みについては、理念や方針などにも記載し、職員は身体拘束禁止の勉強会や研修会を開催して、十分に理解しています。また職員は利用者の意向を丁寧に聞いて、注意深い見守りをしています。出入り口は施錠はせず、利用者の意思と尊厳を尊重しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については勉強会において学んでいる。 入居者の心身の状態については、日々注意を払い申し送りにより把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症研修会等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。成年後見制度を利用されている方もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時入居者や家族に施設内を見学していただき、話し合いの場を設け、不安や疑問に対し十分な説明を行い理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族とは、意見や要望を話し合える関係作りに努めている。意見や要望は会議にて検討し、改善に努めている。	入居時には家族の意向を聞いてサービス計画書に反映しています。家族の来所の際に職員が家族の意見、要望を丁寧に汲み取り、その意見は月例会議や申し送りで検討するとともに、ケアプランなどに反映しています。利用者アンケートの結果でも高い満足度を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。日常的にも職員が意見や提案を出し易い環境作りに努めている。	管理職と職員が参加する月例会議で、ほぼ全職員の気持ちや提案を把握しています。また、職員の互助会にも管理職が参加して親睦を深めています。施設で初めての経験であった看取り介護については職員同士で自発的に会議を開き実践しました。その後振り返りをして改善提案をしています。管理者と職員間には十分な意志の疎通が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、代表者参加の会議にて話し合いが持たれ、改善点があればその都度検討している。介護職員処遇改善交付金も最初から申請し、支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会等へ、積極的に参加できる機会があり、会議で内容の共有にも努めている。レベルアップの為、毎年国家資格等の受験を奨励している。内外の研修に対しては、研修費として賃金の支給がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており、定期的に同業者との勉強会等へ参加している。情報交換し、相互のサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の不安を取り除く配慮をしながら十分に話し合いをし、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に不安や困っていること、要望等を伺って、十分に話し合いをし、信頼関係作りに努めている。併設のデイサービスからの入居者が多く、不安感が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、職員間で必要なサービス提供の為の話し合いをして、選択の機会を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人権を尊重しながら支援し、生活共同作業等を通して信頼関係を築き、職員の学びにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年家族会を兼ねた遠足会等を企画し、多数のご家族が参加されている。入居者、家族、職員三者の関係作りに努めており、質の良い支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が大切にされてきた知人にも気軽に来所して頂いている。併設のデイサービスにも知人が利用されており、交流が持たれている。	利用者は地域の方で、デイサービス利用からの入居者も多く、併設のデイサービスの利用者や知人・友人が気軽に来所し、地域に密着した交流を図っています。また、地域のお祭りや盆踊り、お花見や博物館見学など馴染みの場所への外出も多く実施されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者がより良い関係作りができるよう席の配置に考慮している。入居者の立場を尊重し、職員が間に入り、さりげなく援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者との契約が終了しても、その後の関係を断ち切らない付き合いが出来るように、入院、退所後もお見舞いや訪問をしている。家族の相談にも十分に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活に合った暮らし方に配慮しながら、本人の思いや希望が取り入れられるように努めている。会議において本人の意向に沿った暮らし方を検討している。	居室には利用者が大切にしてきた家具や仏壇、又は楽しかった思い出の写真や好きな芸能人の切り抜き記事などを飾っています。利用者は菜園での野菜作り、食事の下ごしらえや配膳などにも参加しています。職員は利用者の意向を丁寧に把握して、その結果は申し送り書や会議で検討して重要な項目は支援計画に反映しています。利用者本位の支援を尊重していることが十分に感じとれます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の人権を尊重しながら、今までの生活歴や生活環境に配慮ができるよう努めている。昔からの趣味である編み物、園芸等も取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを考えながら生活状況に配慮し、総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や連絡時に、本人の状況報告と共に本人の希望や意向を話し合い、介護計画やモニタリングに生かせるようにしている。	職員は日常のケアや家族の意向や希望などの課題を業務日誌に記入して、申し送りによって職員全員が共有しています。管理職と職員が参加する月例会議などで課題への対応を検討し、介護計画などに検討結果を反映するようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況の変化や気づき等がみられた際は、ケース記録や業務日誌に記入しており、日々の申し送りの際にも報告し情報を共有している。又、会議にて検討し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて受診先を決めている。又、併設のデイサービスへ遊びに行ったり交流を図っている。家族旅行、結婚式等にも自由に外出され対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアの受け入れや近隣の保育園児との交流の中で楽しんでいる。又、消防署の立会いによる避難訓練も実際に経験していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を利用されていて、本人や家族とも相談をしながら健康維持に努めている。	かかりつけ医が、利用者や家族の希望を汲み取りながら、安心した受診ができるように支援しています。入居されるまで診ていただいたかかりつけ医が、訪問してくれる事もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中にも看護師がおり、又、併設のデイサービスの看護師にも相談し、適切な受診や看護に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院での経過状況について説明を受けており、入院中はお見舞いやその後の状態の把握に努めている。又、退院後に向けてのカンファレンスには施設長と管理者が出席し、その後の支援に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した際は、家族やかかりつけ医、施設の看護師と相談しながら今後に向けての支援に取り組んでいる。又、本人の人権を尊重しながら終末期のケアに努めている。	利用者・家族には、入居時に重度化や終末期に対して、事業所として出来る事の説明をしています。家族、かかりつけ医、施設の看護師および介護職員が連携してチームプレーで終末期の支援に取り組んでいます。今年は、自室での看取りがおこなわれ、訓練してきた終末期ケアを実践しました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時に備えての勉強会や研修にも参加をしている。又、会議においても共有し実践力に努めている。緊急時対応マニュアルに従い、各自理解し、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立会いの避難訓練を実施している。市役所での緊急時の避難訓練についての説明会にも積極的に参加している。	消防署の指導のもと、ディサービスと一緒に避難訓練を実施しています。又、グループホームでは、夜間時を想定した利用者の避難訓練も実施しています。地域の方も見学に来ていただき地域ぐるみの避難をめざしています。	今後は、地域の方が見学に来られた経験をさらに一歩進め、地域と連携した地域ぐるみの避難訓練の実現が望まれます。地域の防災避難状況を把握する等、地域との協力体制を築いていく事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーや人権を尊重した言葉使いや態度に気をつけている。又、お互いに人権を損なうような対応には充分注意している。	ミーティングや申し送りなどで、個々の利用者への対応について確認しています。又、管理者と主任、職員の間では、常に情報の共有が図られています。入居者同士のトラブルにも充分注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や誕生会、買い物にも本人の希望を伺い、対応に努めている。入居者の意見はゆっくりと聞きながら、表現ができるように穏やかな姿勢で接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活に合った暮らし方を把握した食事時間や入浴に心がけている。入居者が満足感が得られるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や年間行事の際は、本人の希望が表出できるようにおしゃれや身だしなみを取り入れる支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立表を掲示し、食事が楽しめるようにしている。又、入居者の好みのメニューを取り入れた料理に努めている。各自が自分でできるお手伝いをさせていただけるよう配慮している。	栄養士が利用者の好みを取り入れ、栄養管理した献立を作っています。利用者は入居当時より体調も良くなり、利用者や家族も食事を楽しみにしています。朝・夕は、ユニットごとに手作りの食事を作っています。又、利用者が、簡単な準備や片付けの手伝いをできるように配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態や水分量、食事内容に注意している。かかりつけ医の指示に応じた栄養摂取に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいや義歯の洗浄を行っている。特に夕食後は入居者自身で歯磨きをしていただき、磨き残した際はさりげなく介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中一人一人の排泄リズムを把握しながら誘導や声掛けをしている 本人の状態に応じてオムツの使い分けや自立に向け配慮している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、排泄誘導をしています。夜間も声かけやブザーで知らされた後、トイレ介助するようにして自立に配慮した支援をしています。 パットは、家族と相談のうえ使用することになっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の便秘の原因に配慮した食材の利用に心がけている。又、主治医とも相談しながら対応に努めている。毎日、リハビリ体操を実施し、天候により散歩も行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴ができるよう個々の希望に沿った入浴に努めている。 本人拒否があった際は、時間やタイミングを工夫している。	入浴回数や入浴時間は、利用者の希望やタイミングを取り入れるように努めています。又、デイサービスの大きなお風呂を利用したりして、利用者の気分を変える工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や体調により休息をされている。又、夜間に良眠ができるよう、温度や湿度に注意すると共に、日中の活動にも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が、かかりつけ医を受診する際、報告し、説明を受けている。 看護師より薬の目的、副作用についても再確認を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴に沿った支援に努めると共に、一人一人の楽しみが生かせるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との一緒にの食事や外泊を勧めている。本人の希望に沿った場所へのドライブを行ったりしている。又、買い物や地域でのお祭りにも外出ができるように工夫している。	各ユニットは、屋外のデッキから行くことができます。特に夕方などは、利用者の希望に合わせて、ドライブしたり、職員と一緒に外出するなどの支援を工夫しています。又、利用者の外出は、食事、買物、ドライブ、墓参り、散歩、お祭りなど家族や利用者の希望に合わせた支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、少額の所持金を持っている方もいます。外出の際の買い物はできるだけ本人に財布を渡して使えるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の希望により家族や知人への電話をしている。本人が困難な際は、納得のもとに代筆にも応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西向きの居室にはブラインドを設けている。リビングの明るさも蛍光灯の明るさも調節ができる。 会話が暮らしのなかで自然に聞こえていて安心ができるように工夫している。	トイレの手すりは、可動式です。リビングや室内の温度・湿度の調整、空気の清浄および蛍光灯の明るさも調節し、居心地の良い、安心できる空間を工夫しています。壁には、利用者の作品や幼稚園児の作品、外出の時の思い出の写真など季節感のあるものを工夫して飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファや長椅子、マッサージチェアが置かれており、気の合う仲間とくつろぎの場所となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていた馴染みの物品が置かれて安心ができる場所となっている。入居者の中には、自宅でお守りされていた仏壇が置かれている。	居室には、利用者と家族で相談し、自宅で使用していた馴染みのものを置いています。仏壇を置いたり、壁にはアイドルの写真や、思い出の写真や作品などを貼っています。また、ぬいぐるみの愛犬が居室の入り口に置いているなどの工夫もみられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には目印となる名前や好みの写真を貼り、できるだけ混乱を防ぐ工夫はしている。各室の時計の位置や洗面所は低位置に設置しており、利用しやすい環境となっている。		